

研修報告書 No 38

研修施設： 梶原町立梶原病院
津野町立国保杉ノ川診療所
昭和大学病院 染井將行研修医

私は 2013 年 1 月に高知県の梶原病院で地域医療研修をさせていただきました。今までには高知県どころか四国にも来たことのなかったのですが、なんとなく高知県に行ってみようという気持ちで高知県の梶原病院での研修の希望を出しました。梶原町は高知市内から車で一時間半程度の場所にあり、正直なところ想像していたよりも山の奥でした。しかし、病院のそばを梶原川というきれいな川が流れており、病院としても町としても地域医療を学ぶ上で適した場所だと思いました。

梶原病院での研修のメインは、外来(内科・外科・小児科)、処置、病棟管理、訪問診療、診療所での診療と多岐にわたります。大学病院での経験しかない私には、すべてが新しく勉強になることばかりでした。その中でも訪問診療は今までに一度も経験したことがなく、患者さんのお宅に往診に行き、診察するだけでなく家の環境や家族の状態まで見るといった経験は、本当に貴重なものであったと思います。

梶原病院では、ケアプラン会というものがあり、そこで入院患者さんについて医師、看護師、保健師、ケアマネージャー、理学療法士といった多職種での話し合いが行われます。大学病院は性質上、慢性期の患者さんを診ることがあまり多くありません。したがってそのような患者さんが家に帰るためにはどうすればいいのか、ということを考える機会もあまり多くありませんし、自宅に帰った患者さんの状態を知る機会もあまりありません。しかし、そこでは参加しているそれぞれが持っている情報を共有し、患者さんが家に帰るためにはどこまで回復すればいいのか、家の環境は何が問題なのか、どんなサービスを使っていけばいいのか、今の ADL ではどこまでのことができるのか、など患者さんが家に帰るために必要な様々なことを話し合います。驚いたのは、入院している患者さんだけでなく、今入院していない患者さんについても話し合いが行われていたことでした。往診、訪問看護だけでなく、保健師さんが患者さんのお宅を訪問し、患者さん状態がどうであるか、現在の生活はどうなっているかを、ケアプラン会で報告してくれます。地域支援センターが併設されている梶原病院だからこそ、多職種での連携が非常にスムーズにできていると感じました。地域での連携を学ぶことができた場であったと思います。

梶原病院での研修が始まって、まず思ったのは、地域研修をこの病院にしてよかったということでした。先生方をはじめとする、病院職員の方々だけでなく患者さんたち、町の人々もとともいい人ばかりで、いきなりやってきた私をみんな快く受け入れてくださいました。そして、地域研修を学ぶという面においても、医療関係者だけでなく地域で患者さんを診ていく、そういった環境で地域医療研修ができたことは私にとって、非常に勉強になることばかりでした。梶原病院は、手術をするためには一時間弱の時間をかけて山を下りた病院に行かなくてならないなど、不便と感ずることもあります。しかし、人と人、地

域と病院、病院と病院が強くつながっており、入院から転院、在宅までの支援をする制度が確立されておりケアの面では非常に充実している病院であり地域なのだと感じました。今回の地域医療研修は、患者さんにとって大切なことは何か、を考えさせられる研修であったと思います。梶原病院のスタッフの方々、そして梶原町の方々、一か月間ありがとうございました。